

令和2年度

事業報告書

ホームヘルプステーション清華園

居宅サービス事業

配食サービス事業

ふれあいホーム運営事業

社会福祉法人 民生博愛会

令和2年度事業実施内容

1. 居宅サービス事業（訪問介護）
2. 配食サービス事業（北斗市委託事業）
3. ふれあいホーム運営事業（北斗市委託事業）

1 居宅サービス事業

令和2年11月より令和6年3月末まで、事業を休止する事となりました。今年度実績、収入額 11,009,170 円（前年同時期比 97.86%）、利用者延べ人数 454 人（前年同時期比 94.97%）で、前年度より収入額・利用延べ人数は共に下回っている。

年間の状況として、職員の高齢化及び退職する職員が増加し、新規の受け入れが難しくなった他、長期入院や死亡・機能低下による施設移行が多くなつた為、利用者延べ人数は、下回っている。

収入においては、前年同様、要支援の制度変更による日割り等での定額収入の減少。併せて、新規利用者受入数減少の他、長期入院・入所・死亡等が多くみられる等、収入を下げることに繋がったと思われる。

2 配食サービス事業

今年度実績、収入額 7,109,100 円（前年比 108.38%）、利用者延べ人数 536 人（前年比 105.93%）、取扱食数 7,899 食（前年比 108.38%）で利用者延べ人数・収入・取り扱い食数は、全て前年を上回っている。

年間の状況として、冬期間の入所や死亡により、終了となった利用者も多くいたが、新規の依頼が多く利用者数が増えたこと、他事業所の一時休業による利用回数の多い方を受け入れたことが、前年を上回った要因と考えられる。

今後の事業展開として、緊急に必要な方への受け入れ態勢やアンケートによる嗜好の調査、在宅を継続する為に必要な方への働きかけをしてもらえるよう北斗市包括支援センターとの密な連携を図り、情報の共有を行っていくことが重要になると思われる。

3 ふれあいホーム運営事業

令和2年11月より利用者がおらず、休止している状態です。今年度実績、収入額 273,750 円（前年同時期比 115.4%）、利用者延べ人数 75 人（前年同時期比 115.4%）で収入額及び利用者延べ人数は共に上回った。

年間の状況として、契約利用者数は前年同様だが、利用される需要が増え、前年度を上回った。

4 総括

職員体制について、訪問介護員（サービス提供責任者常勤3名・常勤2名・パート5名・配食専門員3名）合計13名の体制で事業を実施していた。

令和3年度においては、配食専門員4名と所長・副所長の6名体制で行って行く。

技術や知識の習得が10月より行えていなかったため、行っていくこととリスクに対する研修の取り組みが必要である。その他、3ヶ月に1度市役所に現在の情報を報告し、各居宅介護支援事業所や北斗市地域包括支援センターへの連携と、密な関係性を保つための情報の共有を行っていくことが重要であると考えます。

重点目標に対する反省

1. 利用者の身体・生活状況を理解し、可能な限り在宅で生活を継続出来るよう、各関係機関との連携を図りながらサービスの提供及び改善を行う。
→出来るだけ在宅を継続できるよう、福祉用具の活用や介護者へのアドバイスを行った。
その他、各関係機関に状況を都度報告し見直せる部分は、行った。
2. 利用者のアセスメント・居宅サービス計画書に基づき、居宅介護計画・訪問介護計画及び介護予防訪問介護計画を作成し、計画内容の理解と適切なサービスを行う。
→研修内容に介護保険の理解と確認を取り入れ、重要性を認識するよう行っていたが、計画外の希望や認識のズレがあり、確認することが多く見られた。
3. 職員の資質向上と人材育成に際し、人権の尊重や虐待防止・早期発見等に重点を置き研修を行う。また、専門性や実践力の向上を図る。
→研修内容に、虐待や人権に関するものを取り入れている。まだ、虐待の発見や相談は、無かった。。
4. 利用者の拡大を図り安定したサービスを継続的に行う為、必要な職員の確保に努める。
→退職者は数名出たが、職員の補充は来ていなかった為、新規利用者の受け入れが難しかった。職員募集は行ったが、連絡は無かった。
5. 職員自らが感染源にならないよう、自己の健康管理の徹底と、研修会に必ず参加し知識を習得し感染予防に努める。
→各自アルコール消毒液のボトルを持参しマスクの着用を行っている。インフルエンザに感染した利用者の提供に入ったが、感染した職員はいなかった。コロナ対応もできている。